

## 地球惑星科学委員会（第26期・第8回）

### 議事要旨

日 時 令和7年4月16日（水）10：00～12：00

会 場 日本学術会議 6-C会議室（3）及びオンライン（ハイブリッド会議）

出席者 （対面）佐竹健治、中村卓司、西弘嗣、藪田ひかる、（オンライン）三枝信子、小口高、  
倉本圭、堀利栄、矢野桂司（9名）

欠席者 沖大幹

### 議題

- （1）地球惑星科学のロードマップと JpGU ユニオンセッションについて
- （2）未来の学術構想の追加公募について
- （3）法人化問題への対応について
- （4）JpGU ニュースレター（JGL）への投稿記事について
- （5）地球惑星科学分野の合同分科会について
- （6）その他

### 資料

資料1：地球惑星科学委員会第26期・第7回議事要旨

資料2：JpGU ユニオンセッションプログラム

資料3：未来の学術構想の追加公募について

資料4：JpGU ニュースレター（日本学術会議だより）原稿

資料5-1：20250723 学術フォーラム概要

資料5-2：公開シンポジウムの採択の案内と関連事項

資料5-3：学術フォーラム準備

議事に先立ち、佐竹委員長から開会挨拶がなされ、前回及び今回の議事内容の確認をおこなった（資料1）。

- （1）地球惑星科学のロードマップと JpGU ユニオンセッションについて（資料2）

倉本会員より、5月26日午後開催される JpGU2025 ユニオンセッション「地球惑星科学の進むべき道12：地球惑星科学分野の将来構想」のプログラムについて説明があった。各セッションからの発表、夢ロードマップの改訂に向けた説明、前未来の学術振興構想2023年版の制定プロセスからなる合計7件（20分/件）の発表と、イントロダクション（学術会議の動向など）ならびにディスカッションで構成することが共有された。「未来の学術振興構想」の策定に向けた「学術の中長期研究戦略」の公募および今後のスケジュールについてはディスカッションの時間に議論する予定。ハイブリッドセッションとして、倉本会員ほか複数委員が座長を務める。なお、本セッションは地球惑星科学委員会として扱われる（分科会にはしない）。以上のプログラムを、5月24日に行われる連携会員に向けた説明会で佐竹委員長より報告する予定とする。また、夢ロードマ

ップについては、地球惑星科学委員会とJpGUとが合同でのスケジュールを組むことが共有された。

## (2) 未来の学術振興構想の追加公募について (資料3)

・中村会員より、未来の学術振興構想の追加公募スケジュールについて説明があり、地球惑星科学分野関連の学術の中長期戦略（以下、課題）に関するヒアリングの方針について議論がなされた。構想と文科省の大型研究計画ロードマップが独立になってしまっているが書くべき内容は同じであるので、構想の提案課題については改善点を伝えるフィードバックを積極的にした方がよいとの意見、ヒアリングではなく、提案課題について紹介するレベルにとどめた方がよいとの意見があった。応募の件数は既採択課題を含めると合計15件ぐらひはあると予想されるため、ヒアリングは区分I（追加公募分）だけ行うか、区分II（既採択課題の改訂分）も行うか（IIのほうが数が多い）（資料3 朱字参照）について議論がなされた。ヒアリングは区分IIも行うと良いとの意見があった。西会員より、審査員を誰が務めるか（地球惑星科学委員会か、地球・惑星圏分科会および地球・人間圏分科会か）、どこまで実施するか（点数付けの有無）という観点では、評価を点数化するなら審査員は多い方がよい（少ないと、審査員の専門分野が偏っているという理由で発表者側から不服がある場合が考えられる）、一方で集計に時間がかかるため、改善のフィードバックは時間的に余裕がないことを考慮するとヒアリングは区分Iだけでよいのではとの意見があった。

佐竹委員長より、8月に地球惑星科学委員会でも最小限の審査を行い、分科会も都合が合えば後の審査に参加するかどうか方針を決め、日程調整を行うことについて提案があった（合同分科会にすると、各分科会で過半数以上の出席が必要）。

・中村会員から、惑星探査に関する課題提案はこれまでミッション毎に別々に行われていたため、宇宙研から将来ミッション計画としてまとめて出してほしいという意見もあったとの説明があった。これについて倉本会員から、現在進行中の宇宙研将来ミッション計画の検討を踏まえて、学会ベースで数件の新規課題申請があるかもしれない旨、説明があった。

・学術の中長期研究戦略の公募要領について、情報収集をどうするかについて倉本会員から質問があった。機関の長あるいは学協会から、またはそれらが合同で（若手を含む）応募することになっていることを踏まえ、JpGUに依頼して、説明会（4/24）の開催について学協会や会員に周知することとした。

## (3) 法人化問題への対応について

三枝副会長より、法人化問題への対応について報告、説明があった。学協会へは、5月28日の学協会長会議で説明が行われる予定。

## (4) JpGUニュースレター（JGL）への投稿記事について (資料4)

佐竹委員長より、ニュースレター記事の内容について説明があった。

## (5) 地球惑星科学分野の合同分科会について (資料なし)

佐竹委員長より、5/24(土)午前10:00~12:00に、日本学術会議の近況等の現状を連携会員へ説明する予定との説明があった。地球惑星科学委員会として開催し、連携会員にオブザーバーとして参加していただく形とし、後日に視聴いただけるよう録画する。

(6) その他

・中村会員より、7/12に開催される学術フォーラムのプログラム構成について説明があった(資料5-1, 2, 3)。ハイブリッド形式だが、講演者・司会等は原則対面参加とし、講演は一人あたり7分とし、セッションごとに35~40分間の質疑・ディスカッションを設ける予定。2021年にならば、分科会、JpGUも共催に入る。ポスター作成は自分達で業者に頼み準備する。講演を行わない会員が会場係を務める。

・小口会員より、地理教育・ESD分科会の合同査読チームに、堀先生に入ってくださいことについて報告があった。

以上